

城取博幸の

長崎のスーパーマーケット見聞録

NO69

2015 年 7 月

城取フードサービス研究所

城取 博幸

長崎のスーパーマーケット「なかよし村 有喜店」

「生鮮直売所」と「スーパーマーケット」の融合

佐世保市に本社を置く（株）エレナが 2014 年 11 月、食品スーパーと直売所を併せ持った新業態「なかよし村」を諫早市に立ち上げた。

入口を入れば、農産物直売所を思わせるような平台や冷蔵平ケースが縦 3 列並ぶ

「エレナ」が担当するスーパーマーケット部分は、「コの字型」の冷蔵ケースとドライ食品売場

入口付近の直売所は、地元の野菜や魚の加工品、パン、和洋生菓子など、スーパーマーケットでは見られない珍しい商品が目立つ

加工肉のコーナーも地元企業が 3 社入り、NB メーカーと同じほどの売場を確保



購入商品

長崎ならではの商品をいくつか購入



オリーブと岩塩で食べる豆腐 192 円（内税）

充填豆腐をオリーブと岩塩でという新しい食べ方



枝豆入り豆腐 藻塩付 192円

枝豆が丸ごと入った豆腐



豆乳豆腐 タレ付 140円



水の入ったビニール袋に入っていて、水を捨てて中身を取り出す
ごま豆腐のようにトロとした食感
デザート感覚の豆腐

アジ茶漬 塩味 3袋入り 756円

下漬けされたアジの茶漬



タレ、刻みのり付
写真は1袋半の分量
生臭さは一切ない

冷凍天然ぶり丼 378円

味つけされたブリ



冷凍ごまサバ丼 378円

味付けされたごまサバ



オランダ坂 フランクフルト 429円

天然腸を使ったもので、パリッとして食べごたえがある



グルメステーキ

厚切りカットのソーセージが3枚



一口香 95円

長崎の名物菓子

砂糖が伝わってから、長崎独特の菓子が発達した



焼饅頭 「梅」「菊」 各194円

日持ちがするので、ちょっとしたおやつになる



黒糖丸ぼうろ 101円

パンと菓子の中間のような菓子



角煮まん 321円

これは中国から伝わったもの

鎖国後は、オランダと中国にだけ解放されていたため、長崎はオランダと中国の食文化の影響が強い



天然酵母食パン 432円

小麦粉のほかに、麦芽粉、オート麦、ひまわり種、大豆、亜麻仁、小麦ふすま、とうもろこし、ごまと贅沢なパン



もう1店舗視察「エレナ上小島店」

坂の途中にある店 シンプルなレイアウトで買いやすい店



購入商品

イワシ明太漬け ３０５円

桃 ３８６円

あおさみそ汁 ２７８円



まるたか生鮮市場

これも坂の途中にある店

３００坪ほどの大きさでここもシンプルなレイアウトで買い易い

２階は自前の１００円ショップ



購入商品

九州の物価は安い

特に地元で生産される日配品は、値入も低く、値段も安い

同じ商品を他の地域で仕入れても、当然同じ価格では売れない



真えそちくわ 248円（本体価格）

一口サイズの大ちくわ

味はよい



柔らかハリハリクラバー漬け 189円



本干しでパリパリの食感がいい

辛子レンコン 100円

この大きさのレンコンでも、この価格では買えない



キッチンバサミで切ったため、厚切りになったが、レンコンと辛子の組み合わせが絶妙
焼ちゃんぽん ２６５円



お好みちゃんぽんの具 １００円

九州でよく売られている、練製品を刻んだちゃんぽんの具
ちゃんぽんだけでなく、焼きそばにもよく使われる



以上が、長崎のスーパーマーケットの紹介

グラバー邸や軍艦島が「明治日本の産業革命遺産」に登録され、観光客が押しかけています

上海からのクルーズ船も停泊して、長崎は活況を呈している

長崎の歴史探訪

長崎「グラバー邸」で見たもの

世界遺産 長崎グラバー邸を訪れる

トーマス・グラバー

1838 年 6 月 6 日～1911 年 12 月 16 日 スコットランド出身の商人

ジャーディーン・マセソン商会の武器商人として幕末の日本で活躍

日本人妻「ツル」と結婚し日本で生涯を終える 墓は長崎にある

維新後も日本に留まって炭鉱、造船、ビール醸造など幅広く事業を行った人物



グラバー邸のジオラマ

上海からのクルーズ船が停泊



4000人の乗客の一部が一気にグラバー邸に向かう



グラバーと明治維新

グラバーは、伊藤博文ら長州藩士5名をひそかにイギリスへ留学させた
そのことが、新生日本誕生に貢献している



グラバー邸内の麒麟の像



龍と馬をイメージしているらしい
それって「龍馬？」



現在の麒麟麦酒のラベル

トーマス・グラバーは麒麟ビールの社長をつとめた



グラバー邸のこんにやくかまど



当時の流し台

両方とも私が子供の頃も使われていた

ここで西洋料理がつくられていたのであろう

西洋料理発祥の碑



談をおこなったと言われる天井裏の入口

たぶんロフトとして使われていたものである こんなものは西洋建築ではどこにもある



庭にある樹齢 300 年の巨大なソテツ 島津藩主から送られたもの



グラバー邸入口のアーチと上に見えるのがグラバーの家紋



グラバー邸を出た他の建物の近くにある「フリーメイソンの柱」
旧市街にあった「フリーメイソン長崎ロッジ」にあったものを移設したもの
そのまま放置して帰国してしまったため、ここに移設したらしい
あまり根拠はないようだ



コンパスと定規のマーク



長崎のフリーメイソンの説明

グラバーはフリーメイソンか？

グラバーがフリーメイソンであったという証拠はない

同行者が希望したので外人墓地まで同行する

トーマス・グラバーの墓にはユダヤの六芒星やフリーメイソンのマークが付いていない
入口のアーチの上に付いている家紋と同じものが付いている



ユダヤ人墓地

とことん知りたいのが私の性分

道の反対側のユダヤ人墓地をしてみる

長崎外国人墓地のユダヤの六芒星、フリーメイソンのコンパスと定規のマーク



こんな絵も

あまり書くと変わり者だと思われるので

いろいろと他の写真のありますが、この辺で

坂本龍馬や岩崎弥太郎の墓にもこんなマークは付けられていない

坂本龍馬について、いろいろと言う人がいますが、その証拠はない

後にグラバー商会は藩に売却した武器などの資金回収が出来ず倒産！
フリーメイソンとの繋がりが強ければ、倒産はしていなかったであろう
彼を救ったのが「三菱財閥」創業者の「岩崎弥太郎」であった。



ハートの石を見つけて幸せな気分になって、グラバー園を後にする
ハートの石の場所を韓国人観光客に教えてやったら、しおりのお土産をくれた



グラバー邸を後にして、上海香港銀行（SHBC）長崎支店跡に向かう

長崎の「香港上海銀行（HSBC）跡」と「亀山社中跡」で見たもの

香港上海銀行長崎支店跡（HSBC）

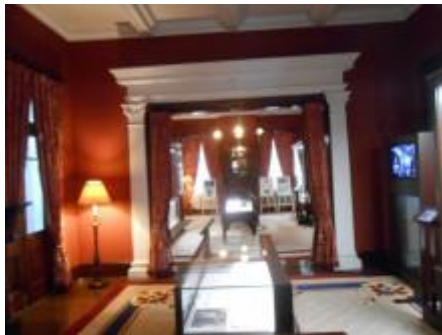
長崎支店は 1892 年開設 スコットランド人のトーマス・サザーランドによって香港に創業
当時は、サッスーン洋行、ジャーディン・マセソン商会、デント商会などと一緒に香港でアヘン貿易
を行っていた

グラバー商会は、ジャーディン・マセソン商会の日本支店であった

海外で商売をする場合、貿易会社、船会社、銀行がセットになっていた



今は博物館になっている 1階内部の様子



2階の会議室

当時の香港上海銀行の紙幣とコイン

武器購入で日本の多くの金銀が海外に持ち出された

輸出品では日本の「ショウノウ」が人気があったようだ



日本で建造された「中山艦」

外国の汽船会社に対抗して、岩崎弥太郎の三菱商会が定期航路を開設

日本で初めての交際航路に使われた「高砂丸」



横浜～長崎～上海の定期便

梅谷庄吉の写真

日本の実業家 孫文を支援し、日活の創業者



当時の窓から見た外の光景

上海からの大型客船が停泊している



あまりこれという展示物は少なかった

上海香港銀行は、その後、横浜正金銀行（後の東京銀行→東京三菱銀行→三菱東京UFJ銀行）の設立にも協力している

「亀山社中跡」へと向かう

亀山社中は、坂本龍馬らにより 1865 年、長崎で結成された浪士結社、貿易結社
亀山焼の廃窯を借り入れたらしい その後廃屋になっていたものを長崎市が復元
かなりキツイ坂道と階段を登る



テレビやポスターでよく見る看板



龍馬の衣装とブーツ(復元品)



龍馬のブーツ(復元品)



龍馬の刀(復元品)

龍馬の愛刀「陸奥守吉行」は、ゆがみがなくまっすぐな刀
そのため、サヤから抜くのが大変であったと言われている



龍馬のピストル(復元品)



屋根裏部屋 グラバー邸のマネ？



海援隊士の写真 ちなみに、この館長は「武田鉄矢」

近くの龍馬のブーツ

長崎市内を見下ろす



もう一つ、土日だけ開館する博物館 さらに進むと、神社にある坂本龍馬の銅像



坂本龍馬は広く知られているが、三菱財閥創業の「岩崎弥太郎」は龍馬程の知名度がない
日本の産業革命に一番貢献した人物

岩崎弥太郎

三菱財閥創業者

三菱のホームページ(mitsubishi. com)によると、土佐生まれの「岩崎弥太郎」の生家は、甲斐武田の末裔だと言われている

それがゆえに、岩崎家の家紋も武田菱に由来する「三階菱」

三菱のスリーダイヤモンドは、武田信玄の「武田菱」と土佐藩主「山内家の家紋」を組み合わせたもの

岩崎家の家紋は、菱型が3枚、大中小と上にズラせて重なったもの

山内家の家紋は「三ツ柏」柏の葉が3枚、ベンツのマークのように広げられたもの

これを組み合わせたのが現在の三菱のスリーダイヤモンド

坂本龍馬の「亀山社中」が海援隊として土佐藩の外郭機関となり、岩崎弥太郎はそこで経理を担当していた。

その後、「三菱商会」を設立

メガネ橋

橋を見て気づいたことは、橋げたが付いていない橋は歩道が急な「太鼓橋」

橋げたの付いている「メガネ橋」は、歩道が緩やかになっている。 橋の強度の問題であると思う。



「出島」へと向かう

長崎「出島」で見たもの

1634年、江戸幕府の鎖国政策の一環でつくられた長崎の人工島

最初はポルトガル人が使っていたが、鎖国で出入り禁止になったため、オランダ人が使うようになる。ポルトガルの時代からオランダに時代へと変わる

以後、200年間オランダ人が住みついた

江戸幕府は、オランダ人から西洋の情報を集めることができた

医学書などの蘭学が浸透する



出島のジオラマ

表門のジオラマ



水門のジオラマ



復元された当時の家並み



オランダアムステルダムの博物館展示の出島のジオラマ



水門側から見た出島 オランダアムステルダムの博物館展示の和服を着る少女の絵

オランダアムステルダム博物館展示の展示品

オランダ語で「ミカド」と書かれている

(オランダ アムステルダムのスーパーマーケット見聞録を参照してください)



長崎の出島に展示されているゴッホの絵のコピー

ゴッホは日本の浮世絵の影響を受けている

写真下のアムステルダムの「ゴッホ博物館(円形)」は、日本の黒川記章が設計したもの



食品が専門であるため、料理、食品を中心に見た

砂糖が輸入されたことから、長崎では洋菓子が発達した 当時の砂糖の袋



長崎に根付いた菓子の写真



サンプルを展示

当時は小麦粉、卵はあったが、バターなどの乳製品がなかったため、ポルトガル菓子、オランダ菓子とは違ったものになった。中国の影響もあり、長崎独自の菓子が発達した
今売られている菓子も乳製品を使っていないため、少しパサついている



長崎のしっぽく料理サンプル(長崎原爆記念館展示)

西洋料理、中華料理、和食がミックスされた料理



当時の晩餐会に出された料理を復元展示



魚料理はタイだけ

鹿のロースト、七面鳥のローストのようなものが見える

殆どが肉料理

ハトかアヒル、カモのようなものが



豚の頭とゴーダチーズ

豚が加えているのが赤色のゴーダチーズ

ゴーダチーズはオランダが名産

当時日本人は肉を食べなかったため、出島の空き地には数々の動物が飼われていた

たぶん「出島は臭かったのでは？」と係に質問すると、

「夏は臭ったのではないのでしょうか」と答える

アフタヌーンティーを飲んだ部屋

ここで、「アフタヌーンティ」を楽しんだ



建物の中から見た、現在の景色

長崎カステラの名店「松翁軒(しょうおうけん)」



偶然店の前を通ると、ある記憶がよみがえる

まったく忘れていたことだが、以前、ポルトガル リスボンで日本人妻智子さんとポルトガル人の夫が経営する洋菓子店「パウロのカステラ」の上のアパートにお世話になったことがある話の中で、夫パウロが、長崎で「長崎カステラ」の修業をしたことがあると聞いていた
その中で、この店の名前が出てきたような気がする

同行者が土産を買うというので中に入って聞いてみる

「以前、この店でポルトガル人がカステラの修業をしていませんでしたか？」

「そうです」と答える

さらに「ポルトガルではなかなか売れなかったみたいですね。日本に帰ってきて、智子さんの出身である京都で店を開いているようですよ」と教えてくれた

ここで、点と点が繋がった

偶然とは恐ろしいもので、彼がここで土産を買うと言わなければ、この店に入ることはなかった

長崎松翁堂で販売されている長崎カステラ



長崎カステラはポルトガルの物とは全く違う
原形はオランダのカステラ「パン・デ・ロー」といわれている

ポルトガル リスボン「パウロのカステラ」

日本人でポルトガル菓子研究家の智子さんとポルトガルのパウロの店
(リスボンのスーパーマーケット見聞録を参照してください)



パン・デ・ロー



中はクリーミーでプリンのような食感
焼きフレンチトーストが人気であるように、日本でもこれから売れてくるのでは

手前になるのが三色の長崎カステラ

どれも丁寧に作られている



「パウロの家」で売られていた長崎カステラ
日本人がお土産に買って帰るという
私もお土産に買って帰った



「パウロのカステラ」と日本語で書かれている

「パウロのカステラ」の上の階にはキッチン付きのアpartメントがあり、そこで4日ほどお世話になった

日本のカステラを普及させるための苦労話をよく聞いた

「カステラは10年間は全然売れなかった」という

それでも我慢して売り続けるうちに、だんだんと売れてきたらしい

店は、レストランと菓子を売る店で、私が伺ったところは日本ブームもありよく繁盛していた

実はその時、日本に帰ることはひそかに聞いて知っていた

撤退ではなく、十分目的を達成してからの帰国だ

リスボンでお世話になったパウロと智子さんは、日本に帰国し京都 北野天満宮 大鳥居横に「カステラ・ド・パウロ」を開店した

今度は、本場ポルトガルの「パン・デ・ロー」を日本に普及させてほしい

人の出会いというのはおもしろいものですね

今度、ぜひ伺いしたいと思う

人と人との出会いというのはおもしろいものですね

近くの和食屋さんで昼食

定食 750 円の看板につられて店に入る ご飯とみそ汁が付いて 750 円は安い

内容は鯛の刺身、アジの南蛮漬け、白身魚と豆腐のあんかけ、酢の物、サラダ、フルーツ

満足にいくものであった



調子にのってテーブルの上にあった牡蠣の写真を見て、大ぶりの岩牡蠣を 4 つ注文する

私の顔をみて「4つですね！」と確認する

大ぶりの生ガキで食べがいもあり、非常においしかった

会計時にきづく

な、なんと、岩牡蠣の値段は 1 個、1200 円

値段を知ってい食べるのと、知らないで食べるのでは、味が違うような気がする

定食より高い。これが商売

数を確認された意味が分かった

それより、目に前で無意識に大口を開けて牡蠣をほうばっていた男は、「価格と価値」の問題に真剣に向かい合っていたかどうか疑問である。

後で、分かった事だが、大きいものはそのくらいするらしい

長崎「平戸」で見たもの

長崎「平戸」は、鎖国前に中国やポルトガル、オランダなどとの国際貿易で栄えた町

長崎駅の道を挟んだ反対側のバスターミナルから、佐世保行きのバスに乗る



高速バスで佐世保までは 1 時間 30 分

朝ご飯がまだであったため、「月餅」を買い車内で食べる



「食べがいありますよ」と売店のスタッフ

内容量を見ると300gもある お腹がいっぱいになる

佐世保に到着し、平戸行きの路線バスに乗る

平戸までは 1 時間 30 分

ホテルを出て平戸までは待ち時間を含め片道 4 時間はかかる 往復 8 時間はこたえる

それでも、一度訪れておきたかった場所

上三川内	平戸	吉井・江迎
8:20	8:30	10:55
8:30	8:40	11:05
7:02	7:10	14:02
7:02	7:10	16:22
7:02	7:10	17:40
7:02	7:10	18:00
7:02	7:10	18:40
7:02	7:10	19:00
7:02	7:10	19:20
7:02	7:10	20:10
7:02	7:10	22:10



終点のバス停の一つ手前で降りる

目の前はスーパーマーケット「エレナ」 ここもシンプルなレイアウトで買い易い店

バスを一つ手前で降りれば、「寺院と教会が見える風景」への道につながる

寺院と教会が共存している場所は少ない

長崎はキリスト教が広がるに連れて、寺社が壊された

寺院の奥に見えるのが聖フランシスコ教会



聖フランシスコ教会

フランシスコ・ザビエルは、1550 年に平戸に来訪

それを記念して 1971 年にこの地に建てられた

教会内部

左にザビエルの像が建つ

現役で使われているため、入れるのはここまで



観光案内に従い道を進む

大ソテツ 当時一番繁盛していた通り



よく見ると釘が打たれている

六角井戸(明の井戸)

平戸には貿易を行うため、明の人々も多く住んでいたらしい



松浦資料博物館

入るか迷ったが、一応見ておくことにした



平戸藩主松浦家の屋敷が博物館になっている

当時使われていたものが展示されている



ポルトガル リスボンの博物館



ポルトガル リスボンの博物館にも同じようなものが展示されている



南蛮屏風



教科書に出てくるザビエルの絵(松浦資料博物館)

ポルトガル王ジョアン 3 世の命により、インドゴアに派遣され、1549 年、鹿児島でキリスト教の布教を始める ちなみにザビエルはスペイン人 1550 年から平戸で布教活動を行なう



まあよくある展示物

当時のポルトガル船



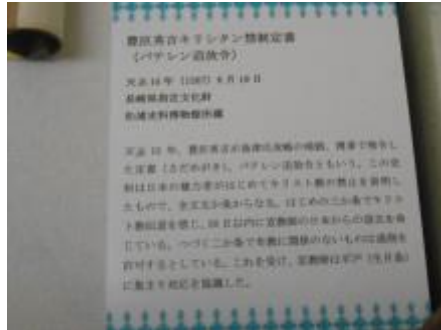
記憶が正しければ、明の船



とんでもない展示物を発見する

秀吉の「バテレン追放令(現物)」長崎県指定文化財

豊臣秀吉は島津氏攻略の帰路、博多で発令した定書



係にもう一度本物であるか確認したところ、本物らしい

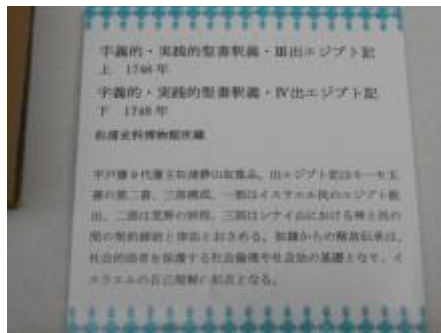
意外なものを見ることができた

これを見られただけで、平戸まで来た価値がある

旧約聖書の一部(松浦記念博物館所蔵)

モーゼの出エジプト ポルトガル宣教師(カトリック)が持ち込んだ「旧約聖書」

オランダ商館には、プロテスタントが持ち込んだ「新約聖書」もある



イスラエルの自己理解の原点となっているもの

豊臣秀吉の「朱印状」

これもすごい



武田信玄像の掛け軸



徳川家康像の掛け軸



加藤清正像の掛け軸



千利休像の掛け軸



宮本武蔵像の掛け軸



なかなか見られないものが展示されている
時代もあってか、織田信長、豊臣秀吉の掛け軸は見当たらなかった

ここまでは、ポルトガル、ザビエルの時代
さらに、オランダの時代へと代わって行く
さらにこんな街並みを進む



こんなオシャレな建物も 途中、こんなポスターを見かける 日本のパスタのルーツ 「平戸パスタ」などというブランドも登場



オランダ坂



オランダ井戸



明の井戸が六角であるのに対し、オランダ井戸は四角

オランダ商館跡博物館

貿易はポルトガルからオランダへと移る



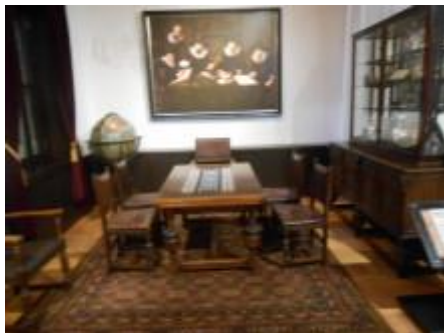
入口にある「オランダ東インド会社」のマーク

1639 年と書かれている

当時のもの



中の様子



展示物

南蛮漆器

16 世紀～17 世紀にかけて平戸商館からヨーロッパに輸出されたもの
貝を使った細工がされている

「リーデン号」模型



1600 年、豊後の国にオランダ船が漂着する

乗組員の一人の英国人ウィリアム・アダムスは徳川家康に重用され「三浦按針（あんじん）」
と日本名を名乗る

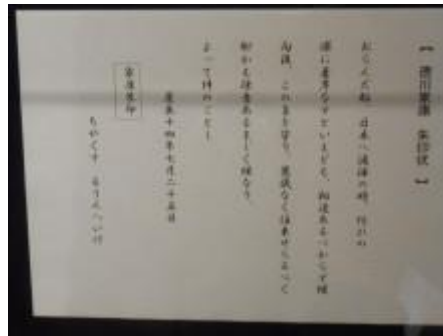
アダムスは、「ポルトガルは、まず宣教師を派遣しキリスト教を広げ、次に軍隊を送り植民
地化を図る」と家康にアドバイスした それにより、家康はポルトガルに対し警戒感を持
つようになった ウィリアム・アダムスの功績により、1613 年～23 年まで「平戸イギリス
商館」があった

「VOC 勅許状」

オランダ国会において、VOC が外交権を持つことが承認された



ここでもすごいものを発見した
「家康の朱印状」



1609 年に徳川家康が発行した朱印状の複製（オランダハーグ国立公文書館所蔵）
日本のどこの港に停泊してもよいと書かれている
しかし、その後、キリスト教布教が発覚し、寄港は「出島」に限定された

なぜ、オランダだけ日本に寄港を許されたか
ここにその答えがあった
「字義的実践的 聖書釈儀」



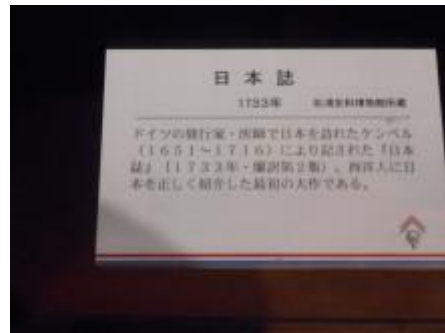
その内容は、オランダ人は新教徒（プロテスタント）であることを主張し、ポルトガル貿易（キリスト教布教）との違いを江戸幕府に訴えた。
それにより、江戸幕府は出島貿易を許可した

「外科全書」

フランス人バレが書いた医学書 蘭学本である本書は 17 世紀に日本語に翻訳された



「日本史」（松浦史料博物館所蔵）



ドイツの旅行家、医師で日本を訪れたケンベルによって書かれた
西洋人に日本を正しく紹介した最初の本

長崎から平戸までは遠いが、貴重な資料が展示されている

博物館のスタッフに、「私は、クリスチャンではないが、ザビエルの通った道を訪れている
んです」と言うと

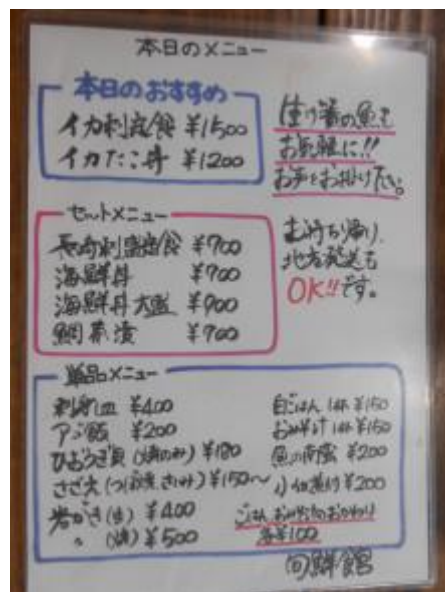
「インドのゴアもですか？」と聞かれる

どうも、ザビエルのミイラが保存されている、インドのゴアのジェズ教会は外せないよう
だ

いつか行ってこようと思っている

「平戸市漁業協同組合」で食事

観光案内所で進められた場所



食堂のメニュー

鮮魚直売所の売場から刺身のトレーパックを堂々と移動して、皿に盛り付けているのが潔い



翌日は、「天草」と「日本二十六聖人記念館」へと向かう

「天草」で見たもの

長崎駅前からバスで 50 分ほどで「富岡港」に到着



茂木 ⇄ 富岡									
長崎・天草ライン時刻・運賃表									
時刻表 (片道時刻は5分) 船名運賃表					運賃表				
長崎発着	茂木着	船名	茂木発着	富岡着	船名	茂木	富岡	天草	長崎
7:20	8:05	1	8:20	8:05	1	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円
10:00	10:45	2	11:15	11:00	2	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円
13:00	13:45	3	13:30	13:15	3	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円
16:30	17:15	4	17:30	17:15	4	1,000円	1,000円	1,000円	1,000円

長崎～天草への観光客は少ないようだ

直売所と食堂が併設されている



食堂で朝食

「そば定食」におでんの厚揚げを注文する

富岡港～茂木港までの高速船

茂木港に到着しても交通機関がないということで、切符売場のスタッフがタクシー会社を紹介してくれた

電話をして3時間チャーターする



天草の乱の巻き込まれたお城が見えてくる

今は復元されて博物館になっているらしい

見学の目玉は「天草コレジョ(神学校)」であるため、タクシーで直行

「天草私立コレジョ館」

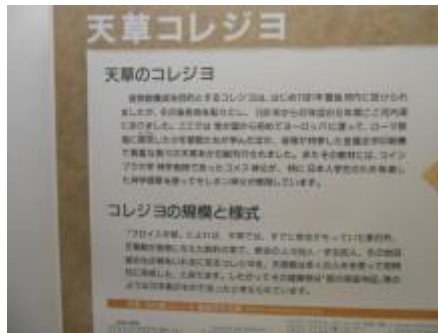
16世紀末、キリスト教の宣教師育成のための大神学校

ポルトガル語では「コレジョ」、英語は「カレッジ」

当時の物は消失しているため、近代的な建物になっている



まずビデオを見る



天草コレジヨの説明

天正少年遣欧使節団

1582 年、キリシタン大名がローマへ派遣した 4 名の少年

長崎～マカオ～マラッカ～インド ゴア～南アフリカ～ポルトガル リスボン～スペイン マドリッド
～ピザ～ローマの旅であった

帰国したのは、8 年後の 1590 年



彼らが到着した、ポルトガル リスボン港にある「ベレンの棟」

ここでは、税金の徴収や入国管理などを行っていた(リスボン特集参照)



カトリックの総本山 バチカンにある「サンピエトロ大聖堂」



中には、日本から少年 4 人がここを訪れたという本人たちの彫刻があると言われているが、私は発見することができなかった

キリスト教迫害とそれぞれの生涯

当時は豊臣秀吉～徳川家康の時代

迫害を受けながら、それぞれの人生を送っている

自分の信念に従って人生を全うした

特に千々石ミゲルの勇気には感動させられる

伊東マンショ(主席正使)

帰国後、神学の高等教育を受けるためにマカオへ、その後、迫害を受けつつも九州を転々とし布教を続ける。1612 年 11 月 13 日長崎で病死

千々石(ちぢわ)ミゲル(正使)

4 人の中で唯一キリスト教から離れたことで知られている

欧州見聞の際にキリスト教徒による奴隷制度を目の当たりにし不快感を抱き、キリスト教に対し疑問を持つようになった

彼は帰国後公然と、「日本におけるキリスト教布教は、異国の侵入を目的にしたものである」

「修道士はイベリア半島では尊敬されていない」とまで言い

親やキリシタンから裏切り者として命を狙われた

晩年は謎に包まれている

中浦ジュリアン(副使)

「私はローマを見た！」

帰国後、20 年に渡り地下活動を行っていたが、イエズス会の 3 人の神父とともに、「穴吊りの刑」で殉教 65 歳

その時の言葉が「わたしはローマに赴いた中浦ジュリアンである」

原マルティノ(副使)

1614 年、江戸幕府のキリシタン追放令を受け、マカオに出発

マカオで日本語書籍の印刷、出版を行った

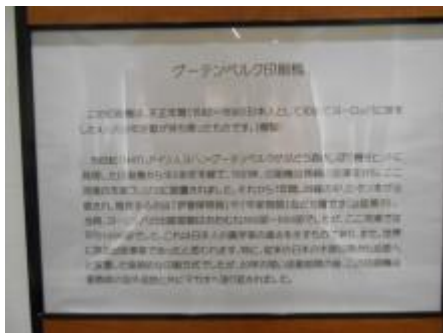
マンショ小西、ペトロ岐部らのローマ行きを援助した

1629 年死去 マカオ大聖堂の地下に葬られている

彼らが持ち帰ったグーテンベルグの活版印刷機

天草コレジョで 1,500 部もの出版部数があった

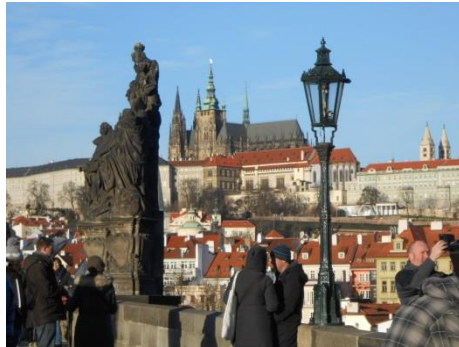
しかし、この印刷機は、宣教師追放と共に、マカオに送り返されたらしい



パイプオルガン



ザビエルが学んだと言われている
チェコ プラハのイエズス会の神学校(チェコ特集参照)
今は大学の校舎になっている



その目の前のカレル橋のザビエルの像
ザビエルの像は王宮に向かって左側の 5 番目



下を支えているのは
インド人と明の人に見える 日本人らしき像はない



「天草コレジョ」と「味千ラーメン」

おもしろい組み合わせだ



キリスト教は海外から入ってきたもの

味千ラーメンは海外に積極的に出店

国内89店舗、海外691店舗と海外の方が店舗数が多い、国際的企業となった

中国に行けばよく店を見かける

特に、ショッピングセンター内に店出している

教会



丘の上の教会

これも建てなおされたもの

タクシードライバー曰く「この辺に住んでいる人はキリスト教徒が多い」とのこと



天草ロザリオ館



馬が1頭放牧されている
ドライバーは馬の方が興味があるようだ
しきりに写メを撮っていた

高速フェリーに乗って帰る

平日であるせいか客は少ない



「天草の乱」の記念館を訪れる時間はなかった

支倉常長と高山右近にも少し触れておきます

支倉常長 安土桃山時代～江戸時代に生きた、伊達正宗の家臣
1612 年、太平洋～メキシコ～スペイン～ローマへと向かう
遣欧少年使節団から 30 年後であった

イタリア チビタベキアの港にある「支倉常長の像」(ローマ特集参照)



高山右近像

江戸時代に国外追放されたキリシタン大名

1614 年、家族と共にフィリピン マニラに移住したが、翌年死亡

マニラ市内にある「高山右近像」(フィリピン特集参照)



誰が管理しているか分からないが、キレイに整備されている

長崎「26 聖人」の記念碑へと向かう

長崎の「日本二十六聖人記念碑」で見たもの

「日本二十六聖人記念碑」は長崎駅から坂を登ったところにある

歩いて行ける距離

歩き続けるとこんな景色が見えてくる



「日本二十六聖人」とは

1597年2月5日 豊臣秀吉の命令により、長崎で磔(はりつけ)の刑に処せられた26人のカトリック信者

秀吉は京都奉行「石田三成」に命じフランシスコ会員とキリスト教徒全員を長崎で処刑せよ命じ、長崎のこの地で磔の刑にした

その中には、まだ小さい子供も含まれていた

その後、1862年、ローマ教皇ピウス9世によって列聖され、聖人の列に加えられた

日本の最高責任者のキリスト教徒殺害として、海外ではよく知られている

秀吉の言い分

歴史は両面から見る必要がある

「秀吉は暴君であったのか？」

秀吉のキリシタン迫害の理由

1. 植民地政策

キリスト教の宣教師は、西欧諸国の植民地政策と結びついていた

はじめに宣教師を送りその国をキリスト教化し、次に軍隊を送り植民地化するという政策であることに、秀吉は警戒を強めた

2. 奴隷売買

かの少年使節団が書いた「50万人の悲劇」

少年たちはヨーロッパに日本人奴隷が売られているのを知っていた

教科書では絶対に教えてくれないこと

火薬1樽のために、50人の日本人娘が海外に売られていったことに対する怒り

ちなみに、「唐行きさん」の話は、この時代ではなく、19世紀後半のことで、島原、天草の女性が多かった

3. 巡会布教

宣教師は、禁止令後も各地を巡回して布教を続けたことに対する怒り

4. 神社仏閣の破壊

宣教師たちは、神社仏閣を破壊し、神官や僧侶を迫害したことへの怒り

5. 牛馬を食べること

当時労働力であった牛や馬を道理に反して彼らは食べてることへの怒り

以上のことから、秀吉はキリスト教宣教師、キリシタンを迫害した

磔の刑を肯定している訳ではないが、歴史は往々にして「酷いことをした」ことだけが強調されますが、その裏にあるもののが知らされないことが多いため、両面を調べる必要がある

彼らは、歴史の犠牲者であった

「日本二十六聖人記念碑」



まだ子供の姿もある

左側から見た像



右側から見た像



よく見ると、右側の耳がない

子供の像も同じである

秀吉は、京都を出る前に、鼻と耳の一部を切り落とすように命じた



裏から見た記念碑

26の石がぶどうのように表現されている



二十六聖人殉教跡の碑



150 年を記念して、2012 年 6 月 8 日に「ツバキの木」が植えられた



大きなツバキの実がついている

バチカンのサンピエトロ大聖堂で見たもの



サンピエトロ大聖堂に向かって右側の柱に注目
柱の上を見ているうちに、偶然数字が書かれていることに気付く



柱は全部で 28 本

12 番目の柱にの数字



同じ場所にあるはずの 13 番目の柱の数字は消されている

この理由は分かる



14 番目の柱の数字



同じように数字を追いかけると

25 番目の柱の数字



同じ場所にあるはずの 26 番目の柱の数字が見当たらない
ひょっとしてと思ったが、当時は深い意味が分からなかった



27 番目の柱の数字



「26」の数字が抜けているのは偶然ではない

たぶん、日本二十六聖人を意識してのことであると思う

私が見たときはそうでしたが、今はどうなっているか分かりません

機会があったら確認されてはいかがでしょうか

日本二十六聖人記念碑からの帰り道で見たもの



勝海舟が一時住んでいた場所



こんな街並みを過ぎて駅に向かう



駅ビル内の中華風レストラン



本場の「長崎ちゃんぽん」を注文

濃厚なスープに感心して、そのまま麺をすすると味が薄い

ちゃんぽんは、スープと麺をよく絡めて食べたほうがいようだ

レモン、生姜味の台湾デザート(スープ入りゼリー)

台湾デザートは日本でも通用する



今回は「長崎平和公園」「原爆資料館」の特集

長崎の「平和公園」で見たもの

平和公園の「平和記念像」



毎年 8 月 9 日を「ながさき平和の日」と定め、世界に向けて平和宣言を行っている



像の裏側には「平和記念像作者の言葉」が刻まれている

チェコスロバキア社会主義共和国から送られた像 ソヴィエト社会主義共和国から送られた像



ポーランド民主共和国から送られた像



以上、当時の社会主義国から送られたもの

ドイツ民主共和国から送られた像 イタリア民主共和国ビストイア市から送られた像



以上「三国同盟」の国から送られたもの
連合国から像は見当たらなかった

米国から日本の皆様への贈り物

1912 年に日本が 3000 本の桜を米国に寄付してから、100 年を記念して米国から送られたハナミ
ズキ 3000 本 そのうち 100 本を長崎市が受けとった

原爆投下に関する、次の世代に残せるようなアメリカのコメントが欲しかった



「長崎原爆資料館」



中はこんな感じで近代化されている

いろいろと展示されているが、興味のあったものだけ書きます

日本国民に配られた米国のビラ(表)

こういう表現の仕方があるのかなと驚く



原爆投下計画都市 第一案と第二案

軍事工場がある場所を狙うのは分かるが、「京都」や「東京湾」が含まれていたことに驚く



1945年8月9日 長崎に原爆投下
投下された原爆



プルトニウム型の原子爆弾

テニアン島で組み立てられ、B29に積まれた場所（現地の写真）

日本軍が使用していた滑走路が使用された



現在の核ミサイル

二度と使用してはいけない



資料館を出たすぐ近くに「原爆投下地点」 破壊された教会の跡



不戦の誓い



終戦 70 年に思うこと

1945 年 8 月 15 日は「終戦の日」です

終戦から 70 年と、終戦前 70 年の戦争の歴史を調べてみました

終戦(1945 年)までの 70 年の年表

- ・1894 年～1895 年 日清戦争
- ・1904 年～2005 年 日露戦争
- ・1931 年 満州事変(柳条湖事件)
- ・1932 年 上海事変
- ・1939 年 ノモンハン事件
- ・1941 年～1945 年 太平洋戦争(大東亜戦争)
- ・1945 年 広島、長崎に原爆投下 8 月 15 日終戦

戦争続きの 70 年でした

戦後 70 年の歴史

- ・1992 年 国連平和維持活動協力法成立 自衛隊カンボジア派遣
- ・2004 年～2006 年 自衛隊イラク派遣

平和な 70 年でした

これからの 70 年

- ・2015 年 7 月 16 日 安全保障関連法案衆議院通過

日本は、戦争に向かっているのか？ 向かっていないのか？

どちらかと言われれば「戦争に向かっている」と思います
戦争する理由はいつも「防衛のため…」から始まります
戦争にならないよう、私たちは監視し続けなければなりません
未来永劫平和が続くことを願います

以上で、長崎、熊本特集は終わります
日本の歴史に関係した場所を、国内外歩いてきました
いつか、「実録 日本がかかわった世界史」なる本が出版できたらと思っています